

研究構想シート	学校名	安来市立比田小学校
	氏名	太田 晶子
A 研究主題 自分の思いや考えをもち、他者の思いを受けとめ自分の考えを深めようとする子どもの育成～特別の教科 道徳の実践を通して～		
B 研究の目的 時分の思いや考えをもち、ともに学び合う子どもを育成するために、道徳科の授業において、効果的な指導の在り方について実践を通して明らかにする。		
<p>C 子どもの実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校児童21名の小規模校 ・完全複式学級 ・児童の多くは、こども園比田から入学してきている。 <p><input type="checkbox"/>素直で明るく、人なつこい</p> <p><input type="checkbox"/>決められたことや指示されたことに対しては、「真面目に取り組むことができる児童が多い。」</p> <p><input type="checkbox"/>自分の意見を発表することができる。</p> <p><input type="checkbox"/>異学年でも仲がよく、一緒に遊んだり活動したりすることができる。</p> <p>●学力の定着に個人差が大きい。</p> <p>●新しいことを考えて生み出したり、自分の力で考えて解決したりしようとする意欲が低い傾向がある。</p> <p>●学習の基礎基本は概ね身につけているが、思考力・判断力・表現力を関連付けて活用することはやや弱い。</p> <p>●友達の考えを受けとめ、さらに考えを深めたりすることを苦手とする児童が多い。</p>	<p>E 手立て・内容(研究仮説)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究仮説 発問と言語活動に工夫のある学習を行えば、自分の考えを深めようとする子どもが育つであろう。 <p>視点1 言語活動の工夫</p> <p>(1) 児童の考えを深めたり、整理したりできる活動となるような書く場面での工夫 道徳ノートの有効活用</p> <p>(2) 聞き合いや議論が生まれるような話し合いの工夫 ・オンラインによる道徳授業 ・ペア対話、役割演技、動作化などの活用 ・座席の配置 ・思考ツールの活用 ・話し合いの足跡が残る板書</p> <p>視点2 発問の工夫</p> <p>(1) 発問の対象(発問で何を問うのか)を明確にする。</p> <p>(2) 発問の仕方(どのように問うのか)を明確にする。</p>	<p>D めざす子どもの姿</p> <p>①友達の話を聞く子 (1・2年)友達の話を反応しながら聞くことができる。 (3・4年)友達の話を、自分の考えと同じか違うか比べながら聞くことができる。 (5・6年)友達の話に対して、質問や付けたしをしながら、話し合うことができる。</p> <p>②自分の考えを深める子 (1・2年)友達の話を聞いた感想を言うことができる。 (3・4年)話し合いを通して、自分の考えをもつことができる。 (5・6年)話し合いを通して、自分の考えが変わったり、新しい根拠が加わったりした理由を言うことができる。</p> <p>③「自分だったら」と考え、友達に伝えようとする子 (1・2年)学習課題に対して、自分なりの思いや考えをもち、友達に伝えることができる。 (3・4年)学習課題に対して、これまでの自分の生活を思い出しながら考え、友達に伝えることができる。 (5・6年)学習課題に対して、これまでの自分の生活を思い出しながら考え、友達に分かるように根拠を明確にして伝える。</p>
	<p>F 検証方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視点をもった授業研究 ・道徳アンケートの実施 	
	<p>G 研究計画</p> <p>6月12日 高学年 6月26日 特別支援学級 9月24日 低学年 10月25日 島根県教育研究大会 2学期中に 高学年 特別支援学級</p>	